

知って、 備える **防災**のこと。

天災は忘れたところにやってくる

これは、「災害は、その恐ろしさが忘れ去られたところに再び起こるもので、用心を怠らないこと、油断は禁物である」という戒めの言葉です。

直近の災害を振り返ると、熊本地震(平成28年4月)や西日本豪雨(平成30年7月)など、どこで、どのような災害が起こりやすい、ということ無く、日本全国で様々な災害が起きていることがわかつています。このような大規模な災害が起こる度、多くの死傷者がでているのも確かです。

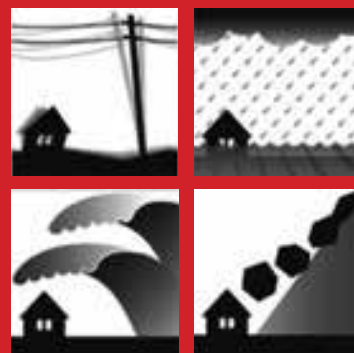
いつ自分の身に降りかかるか、わからない災害。大規模災害から自分の身や、あるいは家族の身を守るためには何ができるのか、考えていこうと思います。

災害の種類について知ろう

災害といっても様々な種類があります。

災害によって適切な対処法をとることが肝心です。

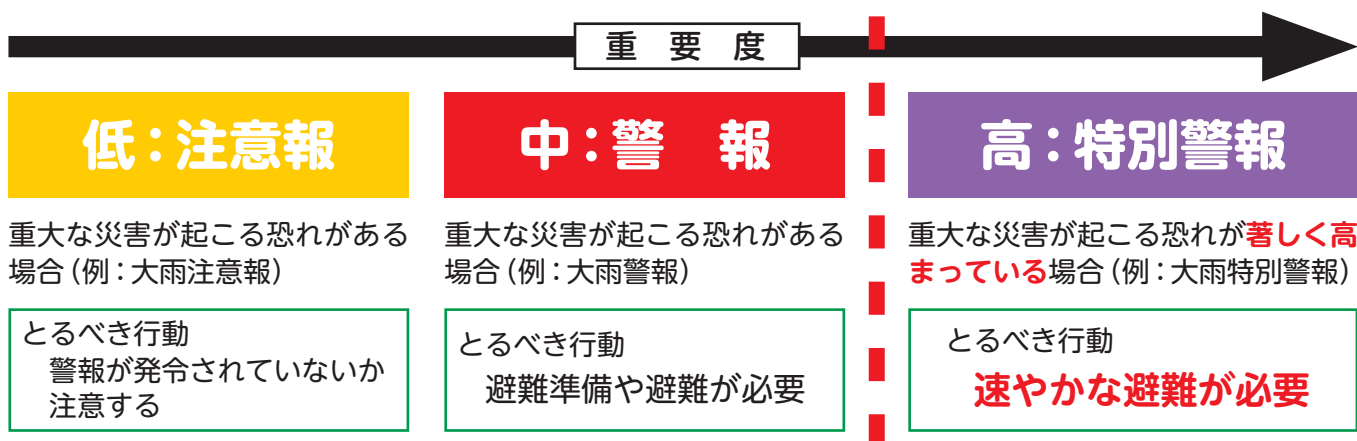
- ・ 洪水 長時間の大雨で河川が溢れる洪水(外水氾濫)
集中豪雨で市街地の排水が間に合わず起こる洪水(内水氾濫)
- ・ 地震 地下の岩盤が周囲から押されることによって、ある面を境としてずれる、突発的な現象
- ・ 土石流 地下水と混合して、河川・溪流などを流れてくる
- ・ 津波 海底で発生した地震が原因で海水が持ち上げられて発生



■ 気象情報の種類とそのとるべき行動を知ろう

災害が起こりそうなき、または起こっているとき、気象庁から重要度に応じて『注意報』『警報』『特別警報』が発令されます。その情報に応じてとるべき行動も大きく変わっていきます。

気象庁が発令する気象情報を見逃すことなく、適切に行動するようにしましょう。



■ 他にも注意したい気象庁からの情報

土砂災害警戒情報

→土石流や急傾斜地崩壊の危険度が非常に高まったときに発表されます。

記録的短時間大雨情報

→数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測したときに発表されます。本町でも平成27年4月30日に148mmの大雨が降り発表されました。

どちらも発表された時点で災害が発生する可能性が非常に高いものです。
気象庁の情報を見逃さないようにしましょう。

気象庁が発表する気象情報をしっかりと確認するようにしましょう。